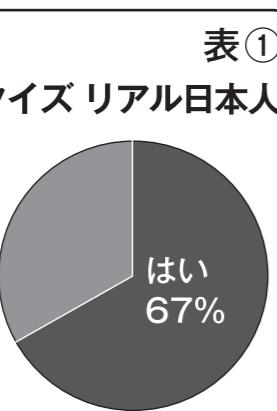


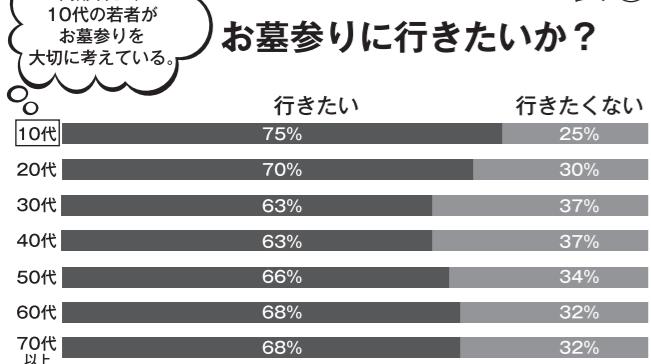
NHK国民アンケートクイズ リアル日本人
8月7日放映

●お墓参りに行きたいか?
(調査対象12,700人)



表②

お墓参りに行きたいか?



お墓参りに行きたい理由は? 表③

《10代 男女》

1位	23%	義務を果たしたい
2位	21%	見守っているので安心できる
3位	17%	行かないといバチがあたりそう
	17%	故人と会えたようで懐かしい

- ①お墓は、単なる遺骨の預け場所ではない。「極楽浄土」の「土に還す場」である。
- ②お墓は、この世に残された人の心の拠り所、「先祖・故人との遙拝の場」である。
- ③お墓は、「先祖・故人」との魂のふれあい・語らいの場である。
- ④お墓を粗末にすることは、「先祖・故人」を粗末にすることである。
- ⑤お墓がなければ、手を合わせることが無くなり、受け継がれてきた先祖を敬う日本人の精神が失われていく。
- ⑥日本人が世界に誇れる、「感謝」「親切」「思いやり」「誠実」「努力」「先祖を敬う心」を見失わないためにも、お墓は大切です。

『お墓とは』



『お墓参りのアンケート』

先日、NHKがリアル日本人で「お墓」に対するアンケートを実施しました。

その結果『表①』で全体の六十七%がお墓参りに行きたいと答え、その内訳は高齢者より十代の若者の方がお墓参りを大切に考えているという結果になりました。また、十代の若者に理由を聞くと『表②』のように答えました。

この結果を見るにあたり、現代の若い人たちは「お墓を守る義務感を持つて」という「社会のルールを守る意識が高い」「ご先祖が見守っている」と信じる気持ちが強い」ということになります。

僕は改めて、お墓参りをする意味を考えてみた。お墓をきれいに掃除したり、お花をお供えしたり。こうしたことなどを通じて、普段表すことのできない祖先への感謝を表すのだと思う。手を合わせることによって、先祖と会話できる気がする。

お墓参りを通して、家族の風習や伝統などを受け継ぐ。自分のルーツを知り、自分について考える機会でもあると思う。これからも、お彼岸には必ずお墓参りをして、先祖や家族の様なことを学んでいきたい。

『あけまして おめでとう ございます』

「正」には「初め」「改まる」の意味があり、新年を迎えた「初めの月」を表しています。

そもそも日本でのお正月とは、農耕民族だった日本人が「新しい年の初めに先祖の靈を「年神様」として迎えて、前年の豊作を感じ、新しい年の豊作を感謝し、新しい年の豊作を願う」という文化でした。

昔の日本人は「先祖の靈は、お正月・お盆・春彼岸・秋彼岸の年四回、子孫の元に戻り繁栄を見守ってくれる」と信じていました。その先祖の靈が「年神様」です。「年神様」は、その年の作物が豊かに実り、家族みんなが元気で暮らせるように、一緒に願つてくれる神様です。

お正月の準備は手間がかかりますが、ご先祖である「年神様」を丁寧に迎える為でもあります。

先程も述べた通り、「お正月・お盆・春彼岸・秋彼岸」は仏様、つまりご先祖の日もあります。

お墓を建立する時期」をよく尋ねられます。この四回の日を迎える前までが佳いでしょう。

お正月を含めて、できれば、この四回の年忌までを含めます。

お正月は家族そろって「お仏壇の置いてある仮間」で一緒におせち料理を頂き、その団欒の中で、それぞれ近況報告をし、旧年の反省と新年の抱負を述べ、特に先祖・故人の思い出話しに花を咲かせ、共にお酒を呑み、食事をすることが供養になり喜んで頂ける大切なことだと思います。

せめて家族そろったときには、氏神さまに初詣に行き、家族そろってお墓参りをされてはいかがでしょうか。

振袖とは未婚女性が着用する最も格式の高い着物です。

振袖が今のように未婚女性の着物となつた事のひとつに、戸初期（四百年前）の踊り子の中風俗が上げられます。これは、

振袖は未婚女性の着物という習達が真似をして大流行したため、

振袖は未婚女性の着物という習達が出来上がったと云われてい

ます。

また、袖を振るという仕草から、「厄払い・清めの儀式」に通ずると考えられていました。

結婚式や成人式の日などに振袖を着用するのは、人生の門出に身を清めるという意味を持つようです。振袖は人との縁を呼び寄せ、「厄払い・お淨め」に通ずると考えられてきました。

ます。

また、袖を振るとい

う表現を表し、それを未婚の娘達が真似をして大流行したため、振袖は未婚女性の着物という習達が出来上がったと云われています。

振袖は未婚女性の着物という習達が出来上がったと云われています。

振袖は未婚女性の着物という習